

第1章

背景と目的

第1章 背景と目的

平成15年8月に閣議決定されたODA大綱では、国内のNGOや大学等との連携により、我が国が有する技術や経験・知見を積極的に活用するという基本方針が示されている。また、文部科学省では、平成18年2月より「国際教育協力懇談会」を開催し、大学を中心とした教育研究関係者の国際開発協力への参画のあり方等について議論を重ね、同年8月、国際教育協力懇談会報告2006「大学発 知の ODA－知的国際貢献に向けて－」として提言を受けた。その中で、教育界におけるグローバル化というタイミングを活かし、NGO等の教育協力の関係者を含めた我が国の教育関係者が有する知見・経験を国際開発協力を活用するとともに、協力現場への教育関係者の一層の参画促進を図るという視点が重要であることが指摘されている。本報告の具体化に向け、文部科学省は、我が国の大学が有する教育研究機能を活用した組織的な国際協力活動の推進や、NGO等を含めた教育関係者が参画する国際協力活動の支援を活動の柱とする「国際協カイニシアティブ」を実施することとした。

途上国に焦点を当てた国際教育／研究協力の効果的・戦略的な推進のためには、大学等有する知的資源を組織的かつ継続的に活用し、途上国のニーズに的確に応える必要がある。そのためには、大学を中心とした我が国の専門組織が幅広い知的支援ネットワークを形成・活性化し、個々の機関/個人が有する知見の範囲に限定されることなく、多機関の有する専門的、網羅的かつ高質な「知と経験」の十全な提供を可能とするシステムの構築が喫緊の課題となっている。文部科学省は、平成19年度より開始した「国際協カイニシアティブ」教育協力拠点形成事業において、「大学の知」を活用した国際教育協力の促進のため、我が国の大学の分野別協力活動支援の推進を目標として掲げている。

このような背景の中で、平成21年11月30日、農林水産分野における教育・研究・社会貢献等に係わる国際協力活動への参加の意図を有する大学間の連携組織である「農学知的支援ネットワーク（JISNAS: Japan Intellectual Support Network in Agricultural Sciences）」が、文部科学省などの協力を得て、正式に発足した。

「国際協カイニシアティブ」教育拠点形成事業の一環として今年度を実施した「農学知的支援ネットワークの組織力を活かした科学技術協力の推進」では、大学等有する知的資源を組織的かつ継続的に活用し、大学を中心とした我が国専門組織が有する専門的・網羅的かつ高度な「知と経験」の提供を通じて、農林水産分野における国際協力の一層の質の向上を目指している。JISNASは、文部科学省における大学や関連機関等有する他の研究分野において途上国に対する科学技術協力を連携して実践するためのモデルとしても位置づけられるものである。

